

「母という 最高のプレゼント」

ヤコブの手紙1章17節

1

母というプレゼント

- 人生で出会う最高のもの
- こどもにとって特別な存在
- 「おふくろさん」、「お母さんの歌」、...
- 若い兵士たちの最後の言葉
- 神の愛に最も近い愛
- 自分を犠牲にする愛
- 自分を犠牲にする神

2

母はどこから

- **すべての良い贈り物、また、すべての完全な賜物は上(神)から来るのであって、光を造られた父(神)から下るのです。** ヤコブ1:17
- 神の心、神の愛から。
- 母は神のアイデア、神の作品、神の傑作
- 人間も神のアイデア、神の愛による。
- 母も母の仕事も神のわざ。神業。

3



福沢諭吉 1835-1901、慶応義塾大学創始者、
明治六次教育家(新島謙、中村正直、森有礼)
学問ノススメ

4

母というプレゼントの贈り主

世の中に父母ほど良きものはなし。 父母より親切なるものはなし。父母の長く生きて丈夫なるは、子供の願うところなれども、今日は生きて明日は死ぬるもわからず。父母の生き死には「ごつど」の心にあり。**「ごつど」は父母をこしらえ、「ごつど」は父母を生かし、また父母を死なせることもあるべし。** 天地万物なにもかも、「ごつど」のつくらざるものなし。子供のときより「ごつど」のありがたきを知り、「ごつど」の心に従うべきものなり。(日々の教え)
ごつど=ガッド=God=(聖書の)神

5



西郷隆盛と勝海舟
江戸(無血)開城談判 1868年

6

母というプレゼントの贈り主

- 西郷隆盛の座右の銘「敬天愛人」(中村正直 愛神愛人) 天は人も我も同一に愛し給ふ故 我を愛する心を以て人を愛するなり
- 「私の隣に住むイギリス人の子供が親を大切にしているのを毎日見ているが、われわれの及ぶところではない。」(勝海舟から福沢諭吉への答え)
- 勝海舟の息子梅太郎は、宣教師ホイットニーの長女クララと結婚した。勝海舟は死ぬ2週間前に信仰告白をした(クララの日記)

7

母というプレゼントの贈り主

- アメリカで始まった母の日は、南北戦争中に敵味方関係なく負傷兵の衛生状態を改善しようとしたアン・ジャービスさんの働きを記念して娘が教会で記念会を行ったのが始まり。母の好きな白のカーネーションをみんなに配った。(1907年5月12日)
- イザヤ49:15「女が自分の乳飲み子を忘れようか。自分の胎の子をあわれまないだろうか。たとい、女たちが忘れても、このわたしはあなたを忘れない。」人生は神の愛への招き。

8

母の日プレゼント

- 年をとらないための「3つの化粧品」。
- 1. いつもにっこり笑うこと。
- 2. 人の身になって思うこと。
- 3. 自分の顔を恥じないこと。
- この「3つの化粧品」は、お金がいらぬ、使っても減らぬ、使えば使うほど質がよくなる、どこへでも持っていける。そして、アンチエイジング、つまり、年をとらないために、とても大事な「化粧品」だと思います。(渡辺和子)

9

主イエスは人となられ(お母さんの歌)

主イエスは人となられ、この世~に来てくれた
見えない神を見せるために人~となられた
神からの便りが届く、それは聖書のことば
主イエスは人となられ十字架についてくれた
罪に苦しむ人のために 命~を捨てられた。
三日後に復活されて、今も~生きておられる。
主イエスはよみがえられて死をほ~ろぼしてくれた。
神の愛が死より強いと教え~てくれたよ
愛を受けて一緒に生きよ。それが永遠のいのち

10